

ちく ほく
筑北村
岩殿山・四阿屋山・冠着山
トレッキングマップ

◆**岩殿山** (いわどのさん) マップ **A**

舒明天皇の時代に学問行者が修験道場として開基し、その後、嘉祥元年(848)に仁明天皇の命を受けた比叡山延暦寺の座主慈覚大師が再興した「岩殿寺(がんでんじ)」の天台修験道場として栄えた。山頂付近にある奥の院には、鎌倉時代中期造立とされる「岩殿寺三所(社)権現男神立像三体」(長野県宝)が祀られていたが、現在は麓の岩殿寺収蔵庫に安置されている。奥の院裏の岩山からの眺めは一見の価値あり。登山道中も九頭龍社・雷神社、学問行者墓地などの史跡が点在しており、見どころも多い登山ルート。

◆**四阿屋山** (あすまやさん) マップ **B**

筑北地域の中央に位置し、地域のシンボルであるとともに水源の多くを担っている。水を司る治水の神として崇められ、五穀豊穡を祈願することで信仰を集めている。また、腹の神としても信仰が厚く、中腹付近の窪地(権現池)から湧き出る清水は霊験あらたかな名薬とされた。山頂には四阿屋神社の奥本社やブナの原生林が社叢として残っており、毎年、春と秋には住民の代表者が拝登している。坂北(中村)ルートからの山頂手前にある展望台からは、筑北の里山と北アルプスの絶景が眺望できる。

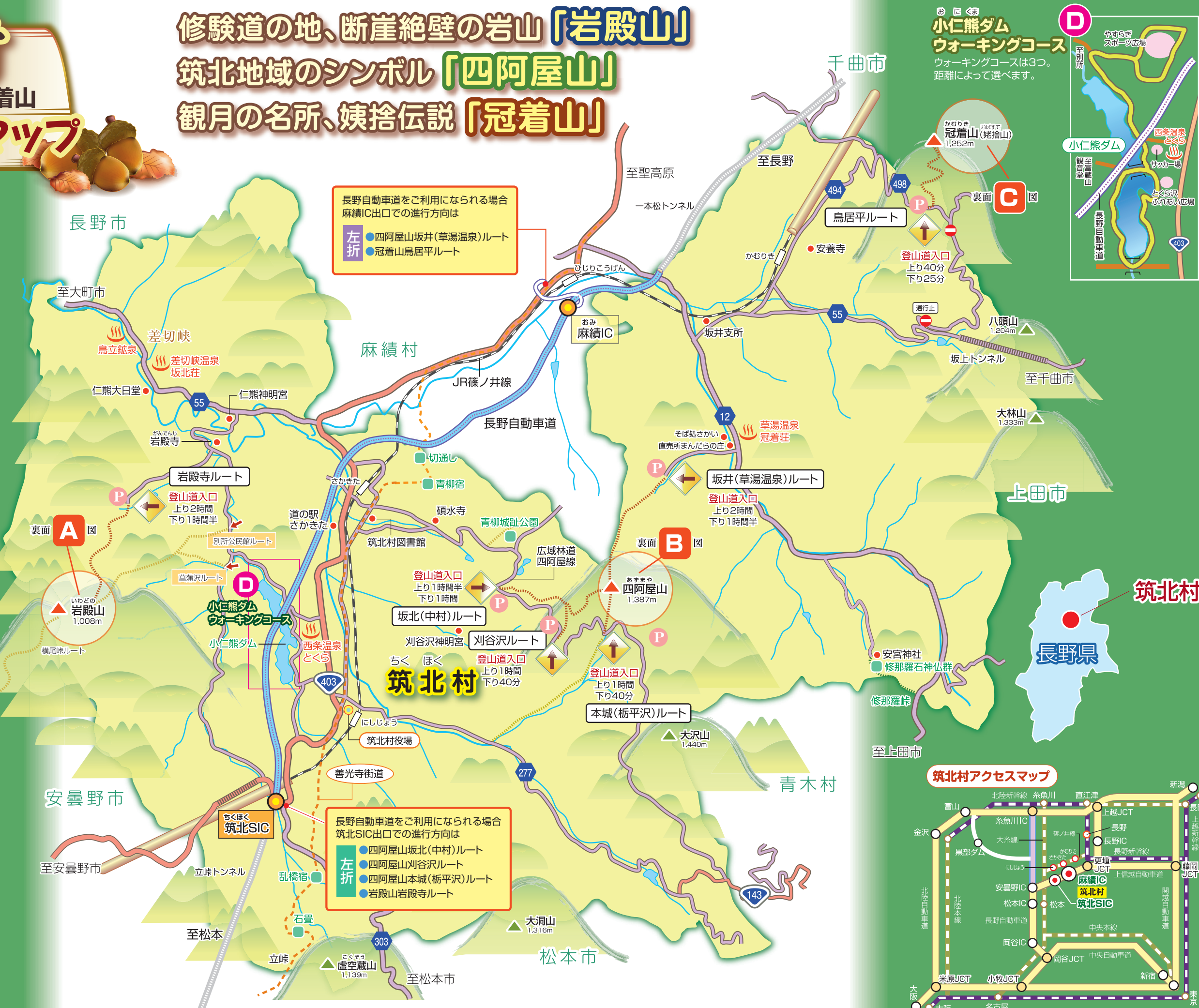
◆**冠着山** (かむりきやま) マップ **C**

「姨捨の月」や「姨捨伝説」の舞台となった姨捨山は、冠着山の別名である。平安時代から月の名所として知られ、東山道や善光寺街道を歩いた多くの旅人がその光景を詠んでいる。歴史的にみると「古今和歌集」(905)に「我が心なぐさめかねつさらしなや姨捨山に照る月をみて」と詠まれ、その後、10世紀中頃に成立した「大和物語」棄老の姨捨伝説が登場する。これらにより「更級」や「姨捨」が全国的に有名になった。山頂からは善光寺平を一望でき、ハイキングとしても楽しめるルート。



冠着山・鳥居平登山口

修験道の地、断崖絶壁の岩山「**岩殿山**」
筑北地域のシンボル「**四阿屋山**」
観月の名所、姨捨伝説「**冠着山**」



筑北村

長野県

